

農に生きる



「品質を上げ、コストを 下げる養豚を目指す」

豊橋市南大清水町

いまいずみ あきひろ
今泉明洋（38歳）さん



南大清水町の今泉明洋さんは高校を卒業後、研修期間を経て両親が営んでいた養豚と一緒にやるようになりました。子ども頃から両親が養豚をしている姿を見てきたので養豚の仕事をするには何の抵抗もなく始めました。動物が相手の仕事なので餌やりなどがあり、休みはありません。「畜産農家の人は休みがなくて大変ですね」と言うと「そうゆうものだから大変だとは思わないよ」と答えてくれました。子豚は産れてから6ヶ月程で、120kgぐらいまでに育ったら出荷します。年間2回から3回産ませています。現在の目標は出産の回転を良くしたり、産まれてから出荷するまでの生存率を上げ、出荷頭数を増やすこと。もう一つは出荷までの日数を縮めてコストを下げることです。なるべく短い期間で大きく育てたいそうです。

安心・安全な肉を供給するため、豚が病気にならないように衛生面に気を配っています。こまめに豚舎の中の掃除や消毒をしたり、外から鳥が入らないように網を張る、また部外者の出入りはさせないようにしています。さらに仕事で豚舎に出入りするたびに着替える徹底ぶり。「安全な肉を供給するためです。手間を掛ければ掛けるほど豚はそれに答えてくれます」出荷した豚の肉を食べてみて味をチェックすることもあるそうです。「うちの肉を買っておいしいと思ってもらえれば嬉しい」と明洋さん。これからも安心・安全をモットーにおいしい豚を育ててくれます。

